

令和6年度 県中教研表記の統一について

富山県中学校教育研究会

令和6年度版「幼・小・中学校教育指導の重点」の表記においては、常用漢字表を踏まえるとともに、「小・中学校学習指導要領」等、文部科学省が用いる表記を原則とする。

【参考資料】 「常用漢字表」（平成22年11月30日内閣告示）
 「学習指導要領」「学習指導要領解説」「生徒指導提要」（文部科学省）

1 主な語句の用例

語句	用例	備考
あ あいさつ あう（～しあう） あがる あじわう あたたかい あたる あてる あとで ありかた	挨拶 励まし 合う 考えを出し 合う 歓声 が揚がる 例を 挙げる 内容を 味わう ことができるように朗読する 温かい 学級づくり 当たる ～に 当たっては 授業時数を 充てる 後で 教材の 在り方	
い いえる いかす いきもの いっそう	主流であったとい える → 備考欄参照 子供の考えを 生かしたり 創意工夫を 生かす 生き物 を大切に 一層 明確に	「言える」は実際の発言の際に使用する。
う うけとめる うちあわせ うつりかわり うるおい	相手の気持ちをしっかり 受け止める 外部講師との 打合せ 様子の 移り変わり うるおい のある教育環境	
お おく おく おける おこなう おさえる おもいやる および	育成に重点を 置く 通知して おく 学校図書館に おける 指導 行う 要点を 押さえる 他人を 思いやる 心 子供たち 及び 保護者	
か かかわる かしよ かたより	深く 関わり ながら 教材との 関わり の中で 四か所 偏り なく養われるように	
き きづく きりひらく きをつける	気付 き 語句などの働きに 気付く 気が付く 自分の人生を 切り拓く → 備考欄参照 気を付けて 話すこと	「切り開く」であるが、意味合いから「拓」を使用する。
く くみあわせる くみたて くらし	組合 せ それらを 組み合わせ る 語句の 組立て 方 組み立て る 暮らし	

	くりかえし くる	繰り返し ～を 繰り返す ～ してくる	
け	けが	事故で けが をする	
こ	こたえる こと ことがら こども	期待に 応える 経験した こと 決まりがある こと に気付き 事柄 の大体を理解しながら 子供 → 備考欄参照	常用漢字表では「子供」。 文科省も平成25年度から「子供」を用いている。
さ	さい さしつかえ さまざまな さらに さらに	その 際 差し支えない 様々な 意味があることを 更に 自分の考えを さらに (接続詞の場合)	
し	しかた じくばり したがい(～にしたがう) したがって しゅうとく しゅうとく じょじょに	提示の 仕方 字配り よく書くこと 示すところに 従い したがって 、子供は 基礎的・基本的な知識及び技能の 習得 技術の 修得 徐々に	
す	すえる すぐれる すすめる すすんで すばらしさ すべて	基本に 据える 表現の 優れている ところ 評価を 進める 進んで 話し合う すばらしさ 全ての 児童	
そ	そって (～にそって)	学習目標に 沿って	
た	だいたい たえず だれ	出席者の 大体 の意見を 絶えず 人間性を磨き 誰	
つ	つきゅう つきゅう つくり づくり (～づくり) つくる づけ (～づけ) つける	課題を 追究 する 夢を 追求 する 体力 つくり 環境 づくり つくりだす 楽しさ 描く活動と つくる 活動 意欲 付け 動機 付け 位置 付け 片 付け ～を 付ける	
て	できばえ できる てだて	技の できばえ → 備考欄参照 改善することが できる 子供への 手立て の工夫	一般的には「出来栄」であるが、「できる」をひらがな書きすることから「できばえ」とする。
と	とう とおして とおり (どおり) とき とくに	子供たちの実態 等 に配慮し → 備考欄参照 会議を 通して 次の とおり である 予想 どおり 事故の とき は連絡する 特に 示す	等…ものごとを列挙する際、その一部だけを示して他を省略する際に用いる。体言の後は「等」とすることを原則とする。(⇒用意するなど…)

	<p>ところ ともに【接続助詞】 ともに【副詞】 とりあげる とりあつかい とりかた とりくみ とらえる</p>	<p>現在のところ差し支えない 活動するとともに 共に学ぶ 題材を精選して取り上げる 取扱い 取り扱う 記録の取り方 取組を重視する 問題解決に取り組む 積極的に捉える</p>	
な	<p>なおす なか なじむ など ならびに</p>	<p>癖を直すように 地域社会の中から 敬体の文章になじむこと 用意するなどの → 備考欄参照 並びに</p>	<p>用言の後は「など」とすることを原則とする。 (⇒生徒の実態等…)</p>
ね	<p>ねばりづよく ねらい</p>	<p>粘り強く実践する ねらい → 備考欄参照</p>	<p>常用漢字では「狙い」であるが、文科省の表記を用いる。</p>
は	<p>はかる はぐくむ はじめ はなしあい はやさ</p>	<p>指導との関連を図る 豊かな心を育む 学習指導をはじめ (ことのはじまり) 始めと終わり、始まる、始める、手始め (時間的に早いと) 年の初め、初めて、初めのうち、最初 話合いの結果 → 備考欄参照 計画を話し合う 声の大きさや速さ</p>	<p>常用漢字では「話し合い」であるが、文科省の表記を用いる</p>
ひ	<p>ひごろ ひとつひとつ ひとりひとり</p>	<p>日頃の指導 一つ一つの語句の意味 一人一人</p>	
ふ	<p>ふまえる ふれあい ふれあい (ふれあう) ふれる</p>	<p>実態等を踏まえて 触れ合い (名詞として使用する場合) ～と触れ合いながら(動詞として使用する場合) 折に触れて</p>	
ほ	<p>ほか</p>	<p>他に ～の他</p>	
ま	<p>または まちがい</p>	<p>又は 間違い</p>	
み	<p>みいだす みぢか みつける みとおす みにつける みやすい みられる</p>	<p>適切な教材を見いだす よさを見いだす 身近な自然に触れる 見付ける 全体を見通す 身に付ける 見やすい ～の傾向がみられた</p>	
む	<p>むかう むすびつく</p>	<p>向かう 結びつく</p>	
め	<p>めあて めざす</p>	<p>一人一人が目当てをもち ～の育成を目指して</p>	

も	もうしこみ もしくは もつ（無形のもの） もつ（有形のもの） もって もと もと もとづいて もとより もの ものづくり	申込み もしくは 関連を もち つつ 自分の考えを もつ 用具の 持ち 方 重い物を 持つ 愛情を もって 結果を 基 に（資料としての意） 指導の 下 （影響を受ける範囲の意） → 備考欄参照 基づいて 基本的な考え方に 基づいた 体育の時間は もとより 、特別活動においても もの の見方 ものづくり や生産活動	※その他の「もと」は ひらがな書きとする。
や	やくだつ	態度を育てるのに 役立つ こと	
よ	よい よく よさ よしあし	よい 子 字配り よく 書くこと 一人一人の よさ 配列の よしあし を見分け	
わ	わかり わたり	意見や意図が 分かり 全体に わたり	

2 主な外来語の表記と略記

使用する	使用しない
アイディア	アイデア
Eメール	eメール
コミュニケーション	コミュニケーション
コミュニティ・スクール	コミュニティースクール
コンピュータ	コンピューター
シミュレーション	シュミレーション
スクールガード・リーダー	スクール・ガードリーダー
スタディ・メイト	スタディーメイト
スタディ・メイトジュニア	スタディメイト・ジュニア
ティーム・ティーチング	ティームティーチング
プロバイダ	プロバイダー

（主な略記） A L T……………【Assistant Language Teacher】外国語指導助手
 J T E……………【Japanese Teacher of English】日本人の英語指導者
 H R T……………【Homeroom Teacher】学級担任